

令和元年6月21日

令和元年度アーバンデザインスクール前期第1回実績報告書

(1) 開催日時

令和元年6月12日(水) 18時30分～20時

参加人数：37名

(2) テーマ

「アーバンデザイン講座」オープンスペースの設計

(3) 話題提供者

遠藤新(工学院大学建築学部教授)

(4) 話題の概要

- 昨年出版された『アーバンデザイン講座』(彰国社)の著者全員によるシリーズ講義として、及川清昭氏(UDCBKセンター長・立命館大学理工学部特命教授)にコーディネート頂く「アーバンデザイン講座」。
- 第1回は、遠藤氏に「オープンスペースの設計」をテーマに話題提供頂き、アーバンデザインの概要、広場、街路、緑地についてご説明頂いた。
- アーバンデザインの概要について
 - 都市計画としてのアーバンデザインが目指すのは、建物単体ではなく都市全体を考えながら、人間にとって魅力的な場所をつくっていくこと。
 - 近代以前は絶対的な権力者(王様)が為政者であったが、現在は建築・土木・ランドスケープなど分野が細分化している。バラバラにつくられたものを、つなげていく空間づくりの役割がアーバンデザインには求められている。
 - アメリカのミルウォーキーリバーウォークの事例では、街の「裏側」であった川沿い敷地を、リバーウォークが開かれた魅力的な場所へと連鎖的に変えていった。アーバンデザインとは、全体として考えてつながりをつくる空間形成と言える。
 - アーバンデザインは計画設計や制度運用など専門家による実践だけでなく、「ここにベンチを置いてみよう」というような個人ができる実践もある。

- オープンスペースとしての広場
 - 現代の都市広場には、道路の広場化、残余地の広場化、歴史的広場のリノベーションなど、さまざまなパターンがある。
 - 広場のデザインは都市の顔になり得る。
 - 不整形で生活の知恵が表れているイタリアの「カンポ広場」、国際デザインコンペにて優秀な建築家を呼んでデザインしたメルボルンの「Federation Square」、段差を利用して休憩空間をつくったサンフランシスコの「Union Square」などが事例として挙げられる。
 - 公共空間は手をかけないと維持できないので、維持する仕組みはとても大切。その方法の1つとして、米国の BID（ビジネス・インプルーブ・ディストリクト）の事例がある。徴税システムを利用したもので、通常の税に数パーセント上乗せで目的税を徴収し、対象エリアの維持に使うというもの。税金が上がったとしても、管理が行き届いて地域の資産価値が高まるため、メリットがある。
 - 「駅前広場」においては、駅前広場・駅舎と、都市とのつながりを考える事が都市デザインの課題として挙げられる。
 - 「JR 門司港駅前広場」の事例では、石畳舗装を施したり、車ロータリーを駅舎横に移動し、象徴的デザインとして噴水を配置している。
 - 「姫路駅前広場」の事例では、落ち着いて人が憩える場をデザインし、眺望デッキにおいては視線の先に姫路城が見えるように演出している。

- 日常的な人の居場所としての広場
 - 一面だけの敷地を利用したポケットパーク（小さい規模の公園）が人々に憩いを提供している。
 - ポケットパークの始まりともいえるニューヨークの「ペイリーパーク」や、貯水池だった場所の遺構を上手く利用したシドニーの「Paddington Reservoir Garden」の事例が挙げられる。
 - プレイスメイキングという、空間を人の居場所へと転じる公共空間の計画・設計・運営手法がある。人の利用が場所をつくるという考え方のもと、設計者側からの論理ではなく、使う側の発想（生活者の目線）からその場をつくり、その場に愛着を育もうとする仕掛け。
 - 人の活動が何も無い場合、空間は使われなくなり、廃墟になってしまう。
 - 講師自身の関わる神奈川県「カナドコロ」は新しいまちづくりの実践事例として挙げられる。30年間空き地だった場所を、少しだけ手をかけて広場へ転換。学生とマーケットを企画したりするプロセスを経て、現在はファーマーズマーケットが定期開催されるなど、活用が広がりを見せている。
 - 草津川跡地公園は、まちの中の分断要素となりがちな河川を上手く活かした

リノベーション空間と言える。子どもが自由に走り回れたり、野球したりできる空間がまちの中にあるというのは貴重である。また、広場に付随した建物（商業施設など）は使いやすい。

- オープンスペースとしての街路

- 道路の機能としては、交通機能（トラフィック・アクセス）、土地利用誘導機能（新たな市街地形成等）、空間機能（生活・防災・インフラや駐車場等の収納等）がある。この3つの機能がバランス良く我々にもたらされているかが重要となる。車のための道路になりがちなので、生活のための空間としてバランス良く使いこなせているのか考える必要がある。
- トランジットモールという道路は、公共交通と歩行者のみが入れる道路（自動車は入れない）で、アメリカの色々な都市で導入されている。
- コンプリート・ストリートというのは、あらゆる利用者にとって使いやすい道路を目指すという考え方。アメリカ各州で法制化され、導入が進んでいるが、主に自転車道において成果が出ていると言える。
- デンマークの建築家ヤンゲールは、人々の屋外での活動を必要活動・任意活動・社会活動の3つに分類している。人の居場所としての街路を考えた時、社会活動の側面が大切になる。
- メルボルンの事例では、単に建物間でしかなかった路地裏に、オープンカフェを誘致したりしてパブリックライフのためのスペースをリニューアルした。
- 歩いて楽しい都市空間を目指したケンタッキー州の事例では、道路に面して駐車場があり、その奥に建物が配置されていたところを、道路に面して建物、その奥に駐車場という順序に変更した。そうすることで、別の建物に行く際に歩いて行きやすくなった。
- 建物と道路（公共空間）の間である中間領域を使いこなすことで、歩いて楽しい都市空間にしている事例は世界中にいろいろあるが、横浜の元町ショッピングストリートもその1つである。
- 例えば角地をオープンカフェにするだけでも、歩いていて心地よい空間として感じられるようになる。

- オープンスペースとしての緑地

- 都市を構造づける空間要素として認識し、緑の空間をかしこく作り込む必要がある。

(5) 主な質疑応答

- (草津川跡地公園の事例を引き合いに出しながら) 行政が引っ張っていきべきなのか?それともお金を出す人が引っ張っていきべきなのか?
 - どうスタートするのかという文脈によっても違うので、民間が全て踏み込んでいけばいいという訳でもない。地域の人に理解してもらうために、美しくつくることは大切。美しいからこそ認められるということがあり、結構大切なポイントである。
- 駐車場の配置を変えたケンタッキー州の事例では、道路をどうやって渡るのか?
 - 駐車場の配置を変えたことによって、建物と建物との距離感が変わったということ。それなりに歩ける距離感になっている。
- まちづくりは誰がやっているのか?コンセプトはどうやって決めるのか?地元民にヒアリングをしているのか?
 - 都市計画の責任者は行政。「こういうのが良い」という意見は誰でも言うことが可能。専門家はツールを提供し、民間企業はハードを持っている。連携して進めていくことが大切。

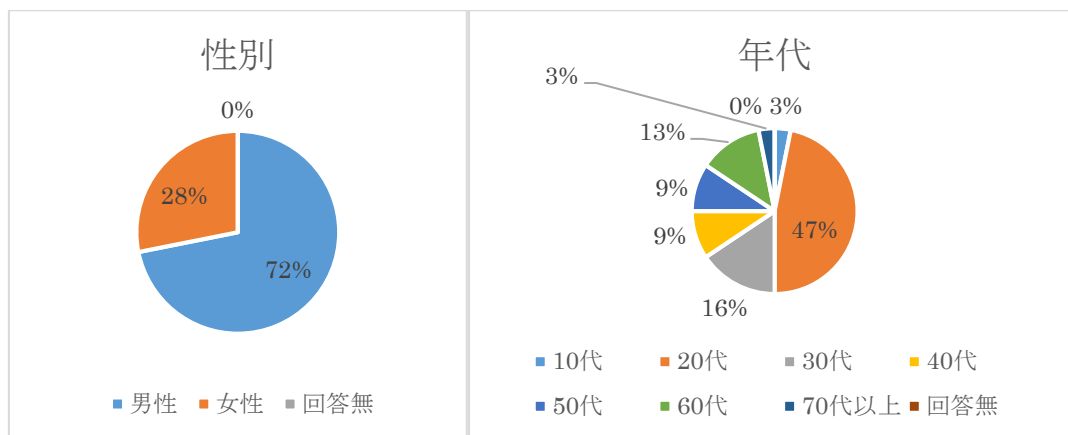
(6) まとめ

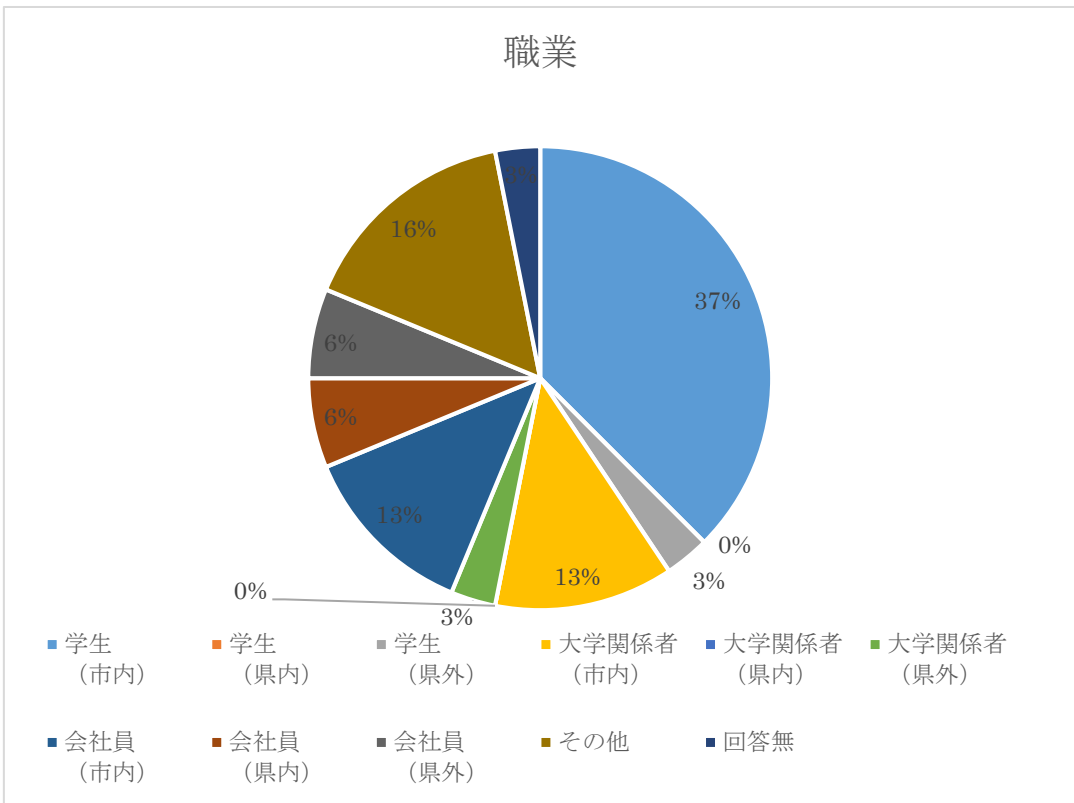
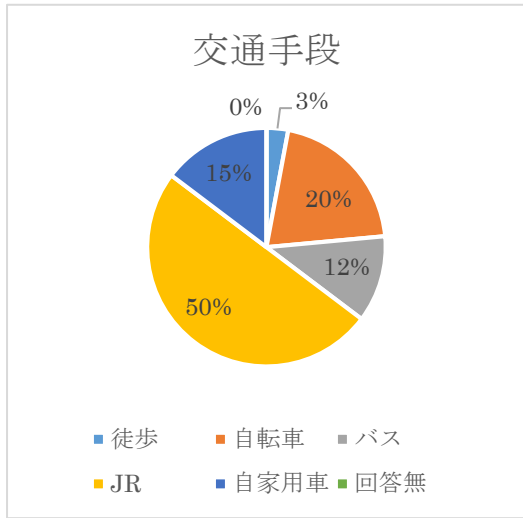
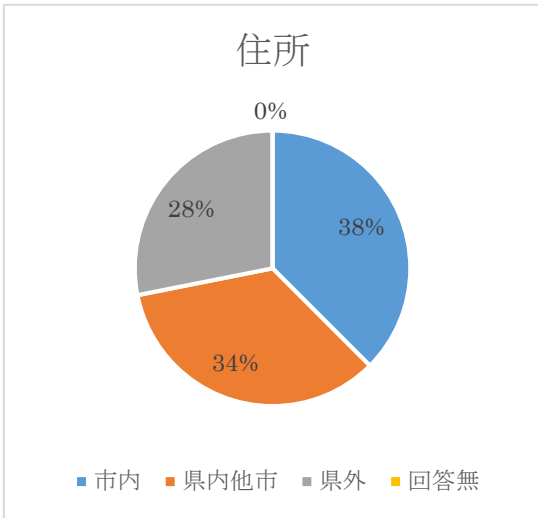
今回の講義では、豊富な事例紹介とともに広場や道路や緑地について学んだ。知識がなければ気づかないが、心地よさを感じる空間にはアーバンデザインの視点で十分な計画が立てられている場合があるのだと分かった。それぞれの持ち場で、今回学んだ知識を生かしていくことが期待される。

(7) アンケートまとめ

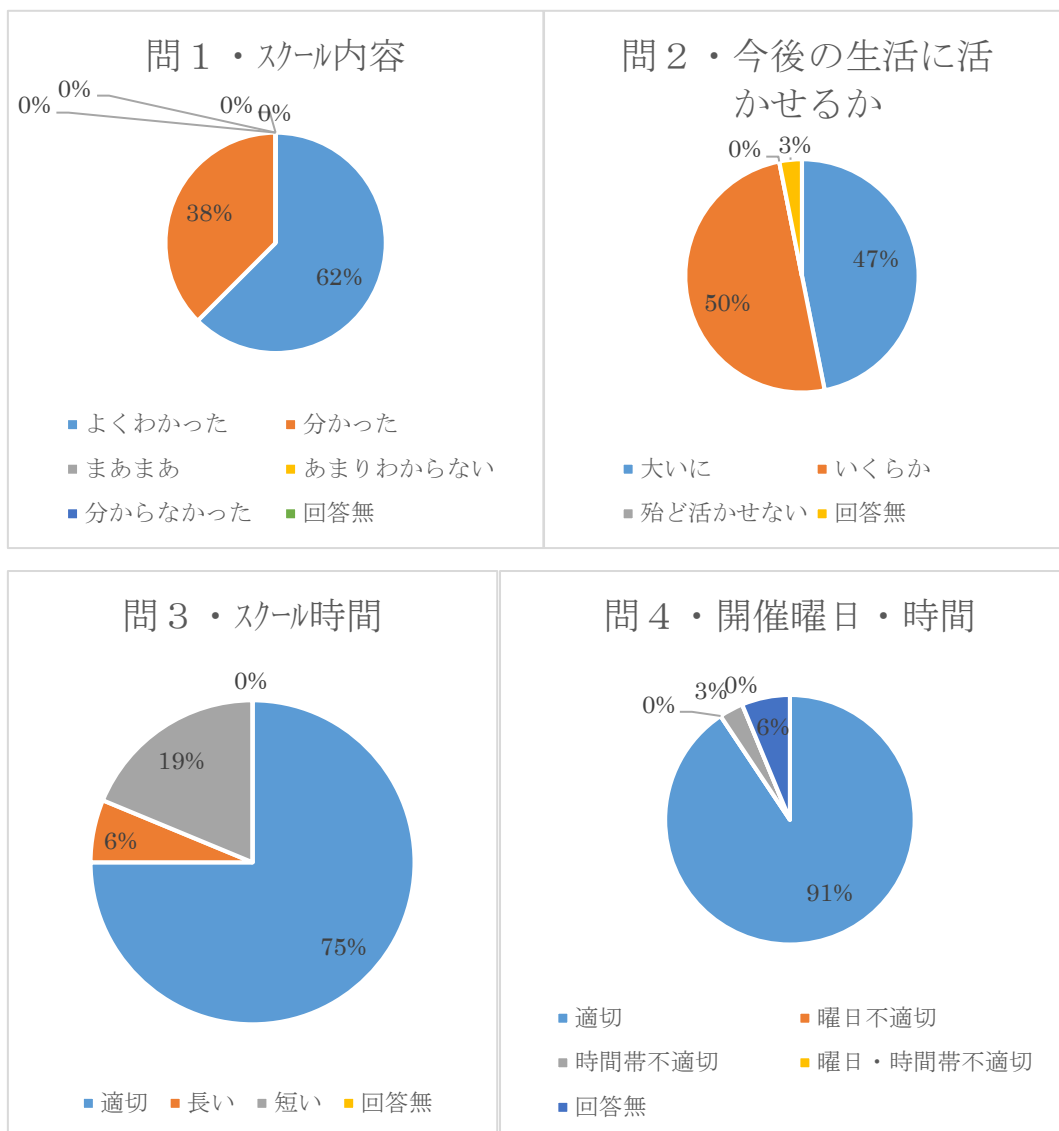
① 参加者属性

参加者37名のうち、アンケートに回答いただいた方は32名、回答率は86%だった。





② 内容について



【自由記入欄回答】

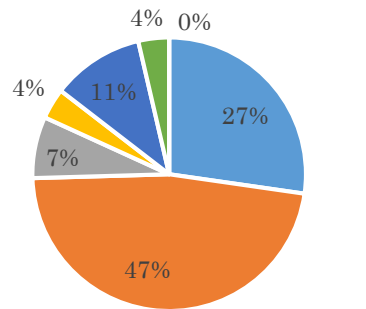
問 3. スクールの時間はどうでしたか。

- ・ 3時間が適切 (40代男性)
- ・ 2,5時間が適切 (40代男性)
- ・ 1時間が適切 (20代男性)
- ・ 3時間が適切 (20代男性)

問 4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

- ・ 19:00~等を希望します (60代男性)

問5・参加動機



- ランドスケープに関心
- まちづくり関心
- UDCに関心
- 友人に誘われ
- 面白そう
- その他
- 回答無

【自由記入欄回答】

問5. 今回のスクールに参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・ 樹木、公園、緑地等（20代女性）
- ・ 便利なだけの街から美しい生活のある街に（60代男性）
- ・ まちづくり、合意形成（40代男性）
- ・ 都市開発や都市のまちづくり（20代女性）
- ・ オープンスペース設計の参考にしたい（40代男性）
- ・ 都市再生、又は都市改善、観光都市となるのか、地域によりそうことをメインとするのか（20代男性）
- ・ 大学の研究で行っている（20代男性）
- ・ 有名建築家たちの織り成す歴史（20代女性）
- ・ 自分は立命館で建築を学んでいて、外部空間やまちについてまだまだ知識が足りないと大いに感じているので参加しました（20代女性）
- ・ オープンスペース、建築、オープンスペースの共存、人々に与える影響（20代男性）
- ・ 都市計画や、アーバンデザインについて考える機会が、最近の機会が多かった（20代男性）

【自由記入欄回答】

問6. 今回の事例の中で、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・ある程度の「きっかけ」を与えてやることで人間の行動が変化し、新しく街が形成されるという所に興味を持ちました（20代男性）
- ・楽しい都市空間（60代男性）
- ・ヤンゲール（デンマーク）の『賑わいは人間の数ではなく、その場所に人が生活し、使っている感覚』という考えが印象に残った。自分の中でも曖昧に使っていた「賑わい」というフレーズが改めて理解できた（20代男性）
- ・アメリカ郊外の大型店舗と駐車場と道路の関係についてのお話はすごく身近でおもしろかったです（20代女性）
- ・思うように人が利用してくれない。道路、建物、パーキングと人の関係性（20代女性）
- ・駅前広場全体を通して、ロータリーの組み換えや広場としての設計（20代男性）
- ・アーバンデザインは都市計画のビジョンの明確化、各空間の連続性 プレスメイキングの重要性、実践運動の仕組づくりと3つの柱が重要だという事が印象にのこりました。
- ・人と車との関係性のバランスをうまく考えながら、都市計画を行っているというところ。海外と日本ではどのように違うのか、社会がどのように関連づいているのかを事例を用いて説明して下さったので理解しやすかった（20代女性）
- ・「美しい」がキーワード（40代男性）
- ・広場が大事、その通りと思う。姫路はまちのイメージが大きく変わった。横浜の元町も全然良くなった 草津も何とかしよう（60代男性）
- ・カナドコロという事例をお聞きして、行政と大学の官民連携の大変さ等を知ることができてよかったです（20代女性）
- ・舞鶴で赤れんがの再開発の話を取材した記憶がある（60代男性）
- ・都市に対する価値観は、時代と共に変わっていく・大きなスケール、ヒューマンスケールを同時に検討することが大事・地形を利用する・自転車のみの道路（30代女性）
- ・「歩いて楽しい都市空間とは？」という画（20代女性）
- ・街路デザイン 裏道→喫茶店などの通りに（10代女性）
- ・ロータリーの位置・歩いて楽しい都市空間・路地裏の活用、集積・オープンスペースのあり様（50代男性）
- ・シカゴの町を構想するのに講演であった内容が、背景があったことに感動した（20代男性）
- ・アメリカの都市空間の変化の図の話（20代男性）
- ・アーバンデザインへの興味がわいた、ヤンゲールについて勉強したい（40代男性）

- ・メルボルンの路地に行ったことあって、とても感動、おもしろいと思っていた。整備の経緯は知らなかったの、知れてよかった。自然発生ではなく、やはり変えよう変わろうという意思のもとでつくられていったものだったんだなと（30代男性）
- ・工学院遠い所からこられてありがとうございました(70代以上男性)
- ・先生から「教科書には・・・」という言葉が何度か出てきたが、これは大学の学外授業ではないですよ。こういう話は、市内まちづくり協議会にかかわる人たちこそ参加してもらいべきではないかと思う。その努力はされているのか？（50代女性）
- ・中間領域の活用方法（20代男性）
- ・中間領域が大事であること（60代男性）
- ・郊外部の誰が管理するのかわからないところを住民に管理させるところがすばらしいと思った（20代男性）
- ・都市空間の機能的な面だけではなく、人が生活面によりそう潮流があると知れた。都市の構成である人をもっとも大事にすべきだと思う（20代男性）
- ・歩行者中心のまちづくりについて話があり、自分の世代にはとても有効であると感じたが、人口減少、高齢化の日本においてどこまで取り入れるべきなのか、についてもっと聞きたいと考えた（20代男性）
- ・利益と便利さ、住民の美的感覚等答えは無いですよ。無い答えを市民が考えるべきですよ（50代男性）